



平成 29 年 4 月 26 日(水)「放課後等デイサービス TekuTeku」を訪問し、「あおいはる」代表者 靄司(つる つとむ)さんに、「NPO あおいはる」立ち上げのきっかけなどをお聞きしました。



＜「あおいはる」立ち上げのきっかけ＞

通学していた高校のお隣が障がい者の作業所で、バスの中でたくさんの障がい者に出会った。そもそも中学時代より、多くの人の死に直面してきたこともあり、「人が生きる」ということについて深く考えるような学生時代だった。そして、高校卒業後に福祉の専門学校へ通うこととなる。

卒業後に入った入所施設では重度の知的障がいの方、身体障がいの方、薬物依存の時期があった方、統合失調症患者、など深刻な状況の人々と出会い、「心」についての追及が始まる。そこで現在も「あおいはる」の独自の支援サービスでもある「心を支える支援」(抱っこ法)を学ぶこととなる。そして、いつか自分が描く福祉を、自分の力でやりたいという思いが芽生える。

その後、重度の障がい児の施設で「心」に加え「発達支援の技術」を身につけ、いくつかの施設での経験を経て、さいたま市にて自分がずっと思い描いていた福祉を実現する。携わった小学生が成長し、地域で暮らしていくことの幸せをうみだしてきた。

だが、自分が暮らす吉川市を見た時、吉川市には大きな施設はあるが、きめ細やかなサービスを提供できる施設がないことに気づき、2年前に一念発起で、吉川市に「あおいはる」を設立した。

＜「あおいはる」のマークの意味＞

「あおいはる」は青い春、つまり青春を表すとともに、さらに深い意味がもう一つある。誰もが地域と人がつながり、それぞれの個性を生かして地域の中で働き、笑って暮らしていける。という法人の理念を、次世代に伝えていきたいという思いから、2人の娘さんの「あおいちゃん」「こはるちゃん」のお名前をいただいている。

「あおいはる」のマークの意味も奥深い。右と左の虹の色が繋がっていないことに気づくでしょうか。

これは、それぞれ違う人たちが、お互いの色で障がい者を支え合えば、それぞれの色の花が咲くという意味だ。正に地域の中で障がい者が当たり前のように支えられながら笑顔でいきる姿が描かれている。





<「あおいはる」のサービス事業>

福祉サービスというものは障がい者総合支援法に則り、基本的人権の中の社会権として、弱い立場の人を、富の再分配により社会保障として支えていくものであるが、サービスの適正化を常に意識しながら以下のサービスを提供している。

○放課後等デイサービス TekuTeku

小学生から高校生までの障がい児を1～5時まで療育（学校休業時は11時～5時まで）現在、35人が登録をしていて、ほとんどの方が週に3回位利用している。

規定では生徒10人に4人のスタッフが必要とされているが、TekuTekuには重度のお子さんが多いこともあり、12,3人に7人前後のスタッフで対応し、きめ細やかな療育に心掛けている。最近では事業所間や学校との連携が少しずつ取れるようになってきている。

以下年齢制限なしのサービス

○居宅介護サービス

ご自宅へ行って、入浴、排せつ及び食事等の介護、また相談や助言など生活全般にわたる援助を行う。

特別な配慮が必要などの行動援護サービスも行う

○一時介護（年5万円）三郷市、吉川市の独自のサービス

2000円／1h（手続き後、9割戻る）

緊急時などに利用できるサービス

○生活サポート事業（150h以下）埼玉県の独自のサービス春日部市のみ事業所登録

緊急時などに利用できるサービス

○日中一時支援サービス あおいはるでは吉川市のみ事業所登録をしている。

8日／月 利用できる

○抱っこ法（「あおいはる」独自のサービス）

対人援助技術であり、心のケアにつながるもの

○その他の活動

月に1回 パン販売を行っている





<今の課題点>

TekuTeku を立ち上げてから、そこで出会った人たちの必要なサービスを適宜開拓してきたが、今、足りないと思うのは、宿泊機能や生活介護事業だ。ネックなのは場所で、宿泊に関しては市街地に設置したいが、場所の確保がなかなか難しい。近隣の方の理解が必須である。

人材育成をしていって、2, 3年後に、高校を卒業した子どもたちが利用できる生活介護、ショートステイのサービスを提供できればと考えている。

<感想>

出会った人を非常に大切にしている、その人たちのニーズにこたえたサービスを作りだしているエネルギーには圧倒される。また、多くの施設でお断りをされてしまうような重度の子たちもわけ隔てなく受入れ、手厚い療育をしている。「生きること」を常に考え、追及してきた鶴さんの強い理念が垣間みれる。そのきめ細かいサービスに、利用者たちには「なくてはならない存在」と言われているのには納得。

私たちの「色々なディに通うのは障がい児の負担にはならないのか。毎日、同じ場所、同じ人で対応してもらった方が落ち着いて生活できるものではないのか」との問いに、「社会に出た時に多くの理解者がいることが大切」と。なるほど、短いスパンでなく、長い目で見ると、たくさんの施設や人と出会っていくことは、将来、社会に出た時にそれだけ多く理解者がいるということになるので、非常に大切なことなのだ。

だから、鶴さんは子どもたちを連れて、外へ出ていく。市役所にも行く、畑にも行く、そしてその収穫物を持って、喜ぶ人たちの中へ入っていく。私もノーマライゼーションを目指してはいるが、それを具体化して実行している人だ。

今後もニーズにこたえながらサービスを充実させていってくれるのだろうと期待が見え隠れしてしまう一方で、背負わせてはならぬ、背負うは社会であり、地域のみんななのだと襟を正す。(K.I.)



<連絡先>

NPO 法人 あおいはる

代表 鶴 司

342-0033 吉川市中曾根 2-6-8 フカイハイツ A105  
048-973-7358

